

⑫ Int. Cl. 4

識別記号

庁内整理番号

⑬ 公開 昭和60年(1985)10月14日

B 29 C 65/04
// B 29 K 27:06
B 29 L 9:00

2114-4F
4F
4F
4F

審査請求 有 (全1頁)

⑭ 考案の名称 ポリ塩化ビニールとポリエステル不織布の結合法

⑮ 実 願 昭59-43532

⑯ 出 願 昭59(1984)3月26日

⑰ 考 案 者 井 上 英 治 豊川市牧野町野畔54番地の19

⑱ 出 願 人 有限会社 井上商店 豊川市牧野町野畔54番地の19

⑲ 代 理 人 弁理士 柴 田 肇

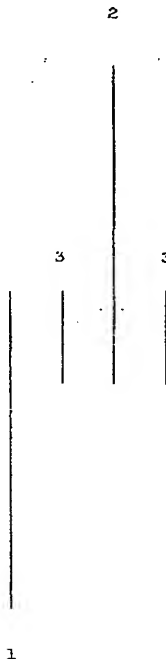
⑳ 実用新案登録請求の範囲

結合させるべきポリ塩化ビニールとポリエステル不織布との中間およびポリエステル不織布の外側により厚いポリ塩化ビニールを当てがうてなす

両者の結合法。

図面の簡単な説明

図面はポリ塩化ビニールとポリエステル不織布の配列を示した断面図である。



⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報(U)

昭60-154117

⑬ Int.Cl.

識別記号

庁内整理番号

⑭ 公開 昭和60年(1985)10月14日

B 29 C 65/04
// B 29 K 27:06
67:00
B 29 L 9:00

2114-4F
4F
4F
4F

審査請求 有 (全 頁)

⑮ 考案の名称 ポリ塩化ビニールとポリエステル不織布の結合法

⑯ 実 願 昭59-43532

⑰ 出 願 昭59(1984)3月26日

⑱ 考 案 者 井 上 英 治 豊川市牧野町野畔54番地の19

⑲ 出 願 人 有限会社 井上商店 豊川市牧野町野畔54番地の19

⑳ 代 理 人 弁理士 柴 田 肇

明 細 書

1. 考案の名称

ポリ塩化ビニールとポリエステル不織布の結合法

2. 実用新案登録請求の範囲

結合させるべきポリ塩化ビニールとポリエステル不織布との中間およびポリエステル不織布の外側によい厚いポリ塩化ビニールを当てがってなす両者の結合法。

3. 考案の詳細な説明

農業用ビニールハウスに使用されているビニール部分の一部には、これに付着する水滴を除去するために、ポリエステル不織布が用いられているが、ビニール部分を構成しているポリ塩化ビニールとポリエステル不織布を結合させるには高周波を利用して圧力をかける方法が一般的である。

この場合において、従来は、厚さ0・05ミリメートルないし0・07ミリメートルのポリ塩化ビニールとポリエステル不織布とを単純に

(1)

実開 60-154117

148

重ね合わせるだけであるが、この方法にあつては、結合度が弱く容易に剥離するという欠点が指摘されており、その改良が望まれていた。

本考案は、まさにポリ塩化ビニールとポリエステル不織布の結合部分の剥離の防止を企図としたものであつて、これを図面によつて説明すると、結合させるべきポリ塩化ビニール 1 (通常は厚さ 0・05 ミリメートルないし 0・07 ミリメートル) とポリエステル不織布 2 との間 (3) およびポリエステル不織布の外側 (3') に厚さ 0・13 ミリメートルないし 0・2 ミリメートルのポリ塩化ビニールを当てがつて高周波により押圧するものである。

この方法によるときは、1、3 および 3' のポリ塩化ビニールの表面が融解して 2 のポリエステル不織布に組み込まれるために、これとの結合が強化されることとなる。

4. 図面の簡単な説明

図面はポリ塩化ビニールとポリエステル不織布の配列を示した断面図である。





面

2

3

3'

1

代理人弁理士

柴 田

肇

150

実開 60-154117

BEST AVAILABLE COPY